

## 番組審議会議事録（第 11 回、平成 30 年 2 月 1 日開催）

1 開催年月日：平成 30 年 2 月 1 日（木）

2 開催場所：私学会館 アルカディア市ヶ谷（6F 貴船）

3 委員出席

委員総数 9 名

出席委員数 9 名

出席委員の氏名：岡田裕介（東映株式会社 代表取締役グループ会長）、  
足立盛二郎（元公益財団法人 日本棋院理事、  
元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、  
兵頭俊夫（大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構  
物質構造化学研究所 ダイヤモンドフェロー）、  
野田慶人（日本大学 芸術学部 放送学科 教授）、  
音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、  
中村幸雄（オフィス・サンライズ 代表、  
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 顧問、  
元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）、  
金子光男（公益社団法人日本将棋連盟 学校教育アドバイザー 大学担当  
学校法人明治大学 監事）、  
小川誠子（囲碁棋士／公益財団法人日本棋院 理事）、  
清水市代（将棋女流棋士／  
公益社団法人日本将棋連盟 常務理事・女流棋士会 監事）

欠席委員の氏名：0 名

放送事業者側出席者名：岡本光正代表取締役社長、倉元健児取締役、  
驒田雅文業務部部长、遠藤 健業務部課長、高田智子、小松美怜

4 議題

- ・生放送（2017 年後半実績）について
- ・藤井聡太四段関連番組について
- ・特別番組について
- ・特別編成（「祝七冠井山裕太ウィーク」）について
- ・今後の予定
- ・イベントの紹介
- ・「囲碁プラス」「将棋プラス」の紹介

5 議事の概要

- (1) 生放送（2017年後半実績）について  
2017年後半に放送した番組の中から、生放送を紹介。  
「第22回 LG杯朝鮮日報棋王戦」（2017年11月13、15日、2018年2月5～8日）  
「第36期 女流本因坊戦 挑戦手合五番勝負」（2017年9月27日～11月29日）  
「第30期 竜王戦七番勝負」（2017年10月21日～12月5日）
- (2) 藤井聡太四段関連番組について  
「棋士・藤井聡太 取材ノート」（2017年7月29日）  
「めざせプロ棋士#909（藤井聡太四段ゲスト回）」（2017年10月24日）  
「生放送 将棋プレミアムフェス in 名古屋」（2017年12月10日）
- (3) 特別番組について  
「第27期 竜星戦 開幕特番」（2017年9月27日）  
「第26期 銀河戦 開幕特番」（2017年9月28日）  
「日韓国会議員&AI ペア碁マッチ」（2017年11月3日）  
「藤井ストッパー・佐々木勇気」（2017年11月2日）
- (4) 特別編成について  
祝七冠井山裕太ウィーク（2017年12月11～17日）
- (5) 今後の予定・イベントの紹介・「囲碁プラス」「将棋プラス」の紹介  
「第1期 韓国竜星戦」「第9期 中国竜星戦」（2018年6月頃～）  
将棋プレミアムイベント「SHOGI PREMIUM FES 東竜門×西遊棋」  
(2017年9月29日)  
dTVチャンネルにて「囲碁プラス」「将棋プラス」を2018年1月30日より  
サービスイン。

## 6 審議内容

- (1) 生放送について
  - （放送事業者）タイトル戦でトップ棋士が対局している際に、若手棋士が解説しているとお客様から「タイトル戦の対局を若手棋士が務めるのはいかがなものか」とご意見があった。タイトル戦等において若手棋士が解説を務めることは気になるか。
  - （足立委員）囲碁においては年配の方の趣味として定着していたと思うが、最近スポーツ等で色々な若い方が登場してくるというのが、明るく受け止められているのが今の日本の風潮である。日本社会というのは外交も手詰まりであり、経済もずっと手詰まりで一種の閉塞感がある。そういう中で若い人達が登場することへの待望論があるので、藤井聡太さんのような現象が起きたのではないか。昔のように年配の方の趣味としての時代とは変わってきているので、トップ棋士の対局の解説を若い棋士が務めるのはおかしいというような時代を卒業しても良いの

ではないか。囲碁界・将棋界にしても、いかに日本の社会の中で裾野を広げることが課題であるし、また若い人の活躍を待望している。特に囲碁と将棋の世界というのは、一番古かったのではないかと、若い方が登場しないという世界では。そういう若い方の活躍というのは良いことだと思う。

- （兵頭委員）基本的に問題無いと思うが、解説の上手、下手というのは若手かどうか関わらずあると思う。若い方でも若い方なりの解説を出来る方に出演いただくことが大切。率直なり初心な人も個性があって面白いが、トップ棋士への尊敬の念を持った解説が出来る人が良いのではないかと。若手棋士に対してクレームが出るのであれば、なおさらである。
- （金子委員）将棋の場合はどうか。若手棋士の解説についてのクレームは囲碁と将棋のどちらが多いのか。
- （放送事業者）将棋の方が多い。
- （中村委員）若い棋士の解説はいかがなものかと思っていた。見慣れてくると女流棋士と若手棋士が会話のキャッチボールをしながら話をしていて、長時間であるから話が上手な方が良いと思った。かつ、観るファンが増えると、解説の棋士が強い・弱いもあるかもしれないが、キャッチボールが面白いと長時間の場が持つ。観る方の視点に立つと、年齢よりもプロ棋士の資質もあるとは思いますが、運営側の時間配分であるとか、アドバイスするなど必要な時期なのではないか。若手棋士は話しているうちに慣れてきて、うまくアドリブを入れたり笑いを入れたり、すぐに上手になる。あまりこだわらなくても良いのではないかと。もちろんベテランの方でも上手の方もいらっしゃるし、出番が増えて慣れて上手になる方もいる。強い・弱いは別にして年配の方やフリークラスでもそういった方もいる。基本的に年齢にこだわる必要はないのではないかと。
- （音委員）一般論であるが、ベテランの方はそれまでの経験などがあるため、権威性、定時的にということがあると思うが、若い方はそれまでの経験や知識等々が多くないのではないかと。年齢で推測してしまうとすれば、演出上の問題で作り手側が勝手に権威性を付ければ良いと思う。
- （放送事業者）作り手側で工夫していきたいと思う。こちらの方でも工夫して、若手の方も起用して放送していきたい。
- （中村委員）昼食に何を食べたかであるとか、解説者が同じものを食べるとか、そういうことばかりでない方が良い。

## (2) 藤井聡太四段関連番組について

- （放送事業者）今回は詳細な棋譜解説のほか、ご自宅でお母様にもお話を伺うシーンのある番組の他、レギュラー番組『めざせプロ棋士』では15分拡大して藤井四段にたくさん語っていただいたりと、通常とは違う工夫をした。藤井聡太さん

の活躍をキッカケとして、『観る将』の方が増えてきている。そういったライトユーザーの方に向けて、ご紹介した番組以外に、こういった番組が良いといったご意見を頂ければと思います。

- （兵頭委員）15分拡大等を始めたキッカケはあるのか。
- （放送事業者）例えば囲碁ファンと将棋ファンの方は視点が違う。囲碁ファンは自分の棋力アップのため、トーク部分をカットして棋譜の解説をして欲しいといった意見がある。逆に将棋ファンはトーク部分を増やしてもっと聞きたいといった意見がある。そのため、今回、将棋の方ではトーク部分を増やした。
  
- （清水委員）将棋プレミアムの名古屋イベントで、お客様の9割が女性であったと聞いたが、特別な告知や工夫をして女性客を集めたのでしょうか。
- （放送事業者）特にしていない。集まった結果、女性が多かったという状態でした。
- （小川委員）女性9割はすごい。
- （清水委員）完全に『観る将』のお客様であったのか。
- （放送事業者）そうだと思います。イベント当日にMCが「イベントをキッカケに将棋を始めた人」と聞いたところ、手を挙げた女性が多かった。藤井聡太さんが登場すると歓声があがった。藤井さんの出身が名古屋であったため、名古屋でイベントを開催したが、県外のお客様が9割だった。450席を有料として、50席をS席5,000円、A席を2,000円で設けたがS席は1日で完売した。S席はほぼ女性だった。
- （金子委員）将棋に対する興味よりも棋士に対する興味なのか。
- （放送事業者）「観る将」の人もいるが、将棋を指し始めた人もいるという状況です。藤井聡太さんを通じて女性ファンが圧倒的に増えている。先日も『家庭画報』という雑誌に将棋駒等が付録として発売したところ、女性の方が買い求めて圧倒的に部数が増えたというニュースがあった。これからは女性もターゲットにしていかなければいけないと感じている。
- （兵頭委員）純粋に本人が指したいのか、将来の子育てに生かしたいと思い購入したものなのか。
- （岡田委員）純粋に女性が習いたいと思い購入したのでは。駒の動きが駒に書いてあるので非常にやりやすい。初心者にとっては分かりやすい。女性たちが始めるためではないか。長続きは別として、非常に工夫されている付録であった。
- （小川委員）『家庭画報』の社長が囲碁ファンで、囲碁サロンの会員の方で、「最初は心配していたが、反響が想像以上で驚いた」と仰っていた。囲碁でも出来なにかという話をした。良い付録であったと思う。

### (3) 特別編成について

- （放送事業者）囲碁と将棋に他の切り口があればご意見をいただきたい。
- （中村委員）将棋の方だが、視聴者の年齢層と視聴時間帯にバラつきがあると思う。視聴者でも若い女性を含め日中働いている方は日中見られない。小さいお子さんがいるような主婦の方は日中テレビをつけっぱなしにするなど、日中に見られる方と見られない方と放送時間帯を区別しながら内容を考えていく必要があるのではないか。ただ、日中働いている方が、深夜に視聴するかということとそればかりではないとは思うが。関心が高まっているので、視聴者の見る時間帯に合わせて工夫していく必要があるのではないか。
- （兵頭委員）昼間は有名棋士の幼少期の特集が良いのではないか。
- （放送事業者）今回、編成として『井山裕太ウィーク』『羽生永世七冠ウィーク』を日中の朝8時から夕方4時までの時間帯に、それぞれ井山裕太さんの番組、羽生善治さんの番組を組んだところ、視聴率がアップした。確かに、昼間の時間帯にも工夫をこらし、こういった番組を放送することも良いのではないかという感触があった。
- （放送事業者）小さなことではあるかもしれないが、特別編成を組んだ場合に古い番組が登場する。古い棋士の人物特集をした場合、昔の番組で対局時に喫煙シーンがある。囲碁・将棋チャンネルは教育チャンネルであるので、喫煙シーンを放送することについてどう考えるか。
- （兵頭委員）少なくともテロップは必要で、テロップがあれば良いかどうかの問題では。当時は喫煙していたというテロップが入れば良いのでは。
- （金子委員）いまのご意見に賛成。貴重な映像なので。

### (4) 今後の予定

- （足立委員）中国竜星戦の解説に違和感がある。言葉遣いが辛辣。解説者でありながら対局者を一刀両断にするような事もある。視聴していて心苦しい。聞きにくいというか、実際にああいった言葉遣いなのか。
- （放送事業者）これまでは忠実に訳すということで字幕を付けていた。日本とは文化が異なるので、辛辣な表現になることがある。基本的にああいった解説が面白いというご意見もある。今のところは正確に訳して字幕でやってきた。本年は、字幕が読みにくいというご意見もあり、吹き替えでやっていく。吹き替えは女性が担当し、実際には辛辣な部分はオブラートに包んで放送する。

### (5) その他

- （放送事業者）そのほかの点で何かあればお伺いしたい。

- （足立委員）囲碁・将棋チャンネルは、少し前までは古い棋譜解説が多かった。取材や生放送を積極的に放送機関として要素を取り入れることによって、世の中の動きと密着してきたと思う。若い方が活躍していく等、今は良い傾向であるのではないかと。経営面は大変かもしれないが、そういう方向でやっていくのが良いのでは。
- （放送事業者）一年ほど前に、報道が重要と考え、取材を増やすなど始めている。取材は多く、話題に事欠かない。取材に関しては全てではないかと、なるべく行くようにしている。
- （岡田委員長）新聞社との関係で情報を早く出したりするのは、いけない取り決めなのか。
- （放送事業者）棋譜ですか。
- （岡田委員長）棋譜はダメかもしれないが、結果は良いのか。
- （放送事業者）結果は良いが、棋譜は主催者が公開した後でないといけない。
- （岡田委員長）速報ではないが、例えば5分間でも『本日の結果』として、棋譜を載せなくても結果が分かるようにできないか。囲碁・将棋チャンネルを見たら速報的なことが分かるようにできないか。決まった時間に毎日『囲碁・将棋ニュース』として、解説もなく、結果だけ放送することで生放送感覚が出るのではないかと。
- （放送事業者）テロップと音楽だけでも良いか。
- （岡田委員）それで十分である。
- （清水委員）難しいかもしれないが、結果に加えて先手後手と戦型が分かると、より視聴者に喜ばれる。
- （中村委員）今、競合でいうと AmebaTV やニコ動があると思うが、有料であったり無料であったり。今後そちらに注力するという話があったが、老舗の囲碁・将棋チャンネルが、量販店のような多チャンネルがあるような中の囲碁と将棋の番組の放送の仕方と、囲碁・将棋チャンネルらしい専門性の高いチャンネルの番組の提供が違わないといけない。同じような路線で戦うと、資金力の高いところが強くなるので、専門性の高い魅力のある番組を何にするかという予算の注ぎ込み方や方向性を含めて、ちょうど今、色々考える時期ではないか。同じ流れに乗って、面白くない勝負をしても仕方がない。
- （放送事業者）基本的には、独占のコンテンツを持っていかなければならないと思っている。囲碁は韓国の竜星戦開催もそうだが、9年目になる中国の竜星戦、中国・韓国の強い囲碁を観たい方もいらっしゃるのと、パラリンピック後あたりから開催予定としている。日中竜星戦は、4期目になり、今回(第4回)は中国で開催するが、来期は日中韓3か国の竜星で日本開催を予定している。こちらは独占である。囲碁・将棋チャンネルは話題性をもっと出していかなければならない。宣伝強化もひとつの懸念である。そこが弱いと思っている。将棋では王将戦が独占

であるので、そういったものを増やしていく。ニコ動さんが棋戦を持つということで、囲碁・将棋チャンネルも棋戦を持つかということを考えなければいけないと思っている。女流棋戦は放送、配信ともに人気があるので、強化も検討している。

- （金子委員）宣伝の場合は、囲碁・将棋チャンネルの番組内ということか。紙媒体ということか。
- （放送事業者）新聞社と良い関係を築いていきたいので、新聞媒体は広告を出している。民放のスポットは難しいが、新聞媒体は一般向けに打っていく。
- （金子委員）将棋連盟とタイアップしていく宣伝していくなどは。
- （放送事業者）そういったこともある。
- （金子委員）囲碁・将棋チャンネルの番組を視聴する方法は特殊な限られた方になるので、藤井聡太さんのフィーバーはあるが、視聴者をどのように広げていくかということはあるかと思う。
- （放送事業者）会員制度の充実を図っていく。テレビで長時間視聴するという事は難しいので、ネット配信で補充していくという方法を取っている。
- （兵頭委員）ホームページでPRを他のメディアに出すとしたら、どうやっていくのかを考えた方が良い。囲碁・将棋チャンネルのホームページへアクセスを増やすために、一般の方がアクセスしやすいようにすることも、アクセス数を増やすことにつながるのではないか。また、『囲碁』や『将棋』と検索をかけた方に、ブラウザの検索結果として『囲碁・将棋チャンネル』があれば、そちらからのアクセスもあるのではないか。
- （放送事業者）今後、そういった戦略も練っていきたい。

以上